

令和4年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 尾間木 小学校）

学校番号 008

【様式】

目 指 す 学 校 像	○よく整えられ、安全で美しい、潤いのある学校 ○共に学び合い、高め合う楽しい学校 ○規則と秩序のある歌声の響く学校
重 点 目 標	1全職員一丸となって取り組む学校課題研究の充実と授業力の向上 2明るく活気があり、安全で安心できる学校環境の充実 3地域・保護者・近隣学校等との信頼関係を基盤とする学校づくり 4全校児童が心をひとつにする、教育活動の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達 成 度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
年 度 目 標					年 度 評 価		
番 号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○全国学力・学習調査や市の学習状況調査では、国語、算数共に、全国、県平均と比べてほぼ同じくらいの結果であった。 ○学習調査において、無回答率が低く課題に対して、粘り強く取り組む姿勢が見られる。 <課題> ○自ら主体的に取り組み、授業に見通しをもって学んでいく児童がもっと多くなると、さらに充実したものになる。 ○理数教育の更なる充実を図り、児童に「わかる、できる、かかわる」ことを実感できるようにする。	・主体的な学びに向けた授業力の向上 ・学校課題研究「理数教育」の充実	①教員が ICT 研修を重ね、児童にスタディサプリ等のアプリを活用させ、自ら進んでタブレットを活用した主体的な学びができる授業づくりをさせる。 ②全国及び市の学習状況調査の結果を活用し、児童の基礎学力の向上について分析し、受講した市の学力向上カウンセリング研修を活かし具体的な手立てを設定・実践する。	①スタディサプリの学習履歴を活用して、担任が児童個々の学習状況を把握し、アドバイスすることができたか。			
			①「共に高め合う」ということは、お互いを認め合うこと」を定着させるために教師が率先して認め・褒める教育を推進する。 ②STEMAS 教育の推進するために、理数教育に力を入れていき、タブレットを活用し、視覚的に学習内容を提示し子どもの理解度を高める授業づくりをさせる。	①学校自己評価で教職員アンケートにおいて、「児童の活動について認め・褒める教育の実践をすることができたか」と回答する教員の割合が80%以上となったか。 ②学校研修評価の児童アンケートにおいて、「理科や算数に対する関心が高まった」と回答する児童が70%以上となったか。			
2	<現状> ○学校評価アンケートにおいて、「学校は楽しい」の質問に肯定的な回答した児童は、90%を超え、心の安定が見られる。 ○リフレッシュ工事に伴い、学校生活環境が制限されたり、変更があったりして校内での怪我が多くみられた。 <課題> ○児童の居場所の確保と心の安定を確保することが、「楽しい」という気持ちになれるベースになるので、あたたかい言葉がけと認め・褒める教育の一層の推進が課題である。 ○コロナ禍の影響も含め生活環境の制約から起こる怪我などについて、生徒指導委員会でも共有し、学校全体で対応することが課題である。	・「凡事徹底」を目指した校内体制の充実 ・認め・褒める教育の充実	①様々なアンケートや普段の見取りを重ね、児童の状況把握や支援・相談を行う。 ②児童の様子を ICT 機器を活用して記録を残し、継続的に様子を把握していけるようにする。	①学校自己評価で教職員アンケートにおいて、関係する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。 ②学校自己評価で児童及び保護者アンケートにおいて、関係する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。			
			①教育相談・生徒指導の連携を密にし、情報を共有するようにする ②声掛けをするときには、あたたかい言葉を心がけ、児童の言動を認め・褒めて、自らの言葉で語らせることを行い、必要に応じて指導・助言をする。	①学校自己評価のアンケートにおいて、 ②学校自己評価のアンケートにおいて、			
3	<現状> ○今年度から尾間木小学校運営協議会を立ち上げ、熟議のもと協働して児童を見守る・育成することを確認し、今年度の方針を確認した。 <課題> ○学校運営協議会で熟議し決まった、児童を学校と保護者地域で育成していく内容を、多くの方々と共有・協働することが課題である。	・ICT を活用し育成する教育活動を公開 ・小中一貫教育に基づいた、地域との協働活動	①HP に学校運営協議会のページを新設し、活動内容を共有できるようにする。 ②SNS を活用し、情報を共有することで小中学校と地域が一緒になり、子どもたちへの声かけ（あいさつ運動等）などを心がけ、同一歩調で関わっていくようにする。	①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校は、教育活動の情報を地域に伝えている」と回答する割合が80%以上となったか。			
				①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校、家庭、地域が協働して、児童の育成に関わる取り組みをしている」と回答する割合が80%以上となったか。			
4	<現状> ○タブレット端末やアプリを使用する学習での ICT の活用について、エバンジェリストを中心に研修を重ねてきた。 ○理数教育と教科横断型の授業について、研修を重ね授業で展開することで児童の育成を行ってきた。 <課題> ○ICT 活用については、スキルの個人差が見られるので、教職員全体の向上が求められる。 ○家庭学習の定着が課題になっているので、基礎基本の定着を目指した「尾間木小家庭学習スタンダード」の共有と実践が課題である。	・「理数教育」「教科横断型」の授業」についての研修の実践	①「理数教育」の研究をまとめ、今年度、授業実践及び研究成果の発表を実施する。 ②「尾間木小家庭学習スタンダード」を作成し、保護者と共有することで、学力状況調査等での基礎基本の向上を図る。	①教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す状況になったか。 ②1学期の終わりに、尾間木小家庭学習スタンダード」を策定し、関連資料を各家庭に配付し、2学期の個人面談で確認・共有することができたか。			